

## 臨床研究 計画書

申請日：2023年12月15日

研究代表者氏名	田中智裕	
共同研究者氏名	浅ノ川総合病院 薬剤部 笹山潔	
	北陸大学 薬学部 石川和宏、古田千裕	
研究課題名	回復期リハビリテーション病棟における転倒と薬剤の関連性に関する検討	
研究目的・概要	<p>転倒により骨折、脱臼、捻挫等が生じると、患者のQOLが低下する。場合によっては寝たきり、要介護に繋がるため、転倒対策は医療安全、介護、医療経済等の様々な観点から見ても重要な課題であると言える。</p> <p>転倒は様々な要因が組み合わさることで発生するが、特定の薬剤の使用やポリファーマシーも要因と言われている。転倒を誘発する薬剤は多数報告されているが、特に催眠鎮静薬、抗うつ薬、抗てんかん薬、抗精神病薬等はふらつきや転倒を誘発する薬剤の代表例であり、薬剤と転倒の関連について様々な研究がされている。</p> <p>当院は50床の回復期リハビリテーション病棟を有しており、当該病棟では積極的にリハビリが行われているが、身体機能、筋力、精神状態等の要因が常に変化するため、転倒リスクとは常に隣り合わせである。</p> <p>本研究では、回復期リハビリテーション病棟における転倒と薬剤の関連性について後方視的に調査を行う。</p>	
PECO	Patients	浅ノ川総合病院回復期リハビリテーション病棟入院患者（2022.4.1～2023.3.31）
	Exposure	対象薬を服用している患者
	Comparison	対象薬を服用していない患者に比べて
	Outcome	転倒率が高い
スケジュール	<p>【研究実施期間】承認後～2025年3月31日</p> <p>【研究対象者】浅ノ川総合病院回復期リハビリテーション病棟入院患者（2022.4.1～2023.3.31）</p> <p>【調査方法】</p> <p>研究対象の患者について、電子カルテより必要な情報を調査し、匿名化を行ったうえでMicrosoft Excelファイルに</p>	

	<p>記入する。個人の特定が可能となる情報はファイルに記入しない。</p> <p><b>【調査項目】</b> 年齢、性別、身長、体重、BMI、診療科、入院中の転倒の有無、原疾患、既往歴、調査対象薬の有無、投与量、投与期間</p> <p><b>【調査対象薬】</b> 催眠鎮静剤、抗精神病薬、抗うつ薬、抗パーキンソン病薬、抗うつ薬、非麻薬性鎮痛薬、神経障害性疼痛治療薬</p> <p><b>【調査資料の管理】</b> 研究責任者は研究終了後、Microsoft Excel ファイルをパスワード付き USB フラッシュメモリへ保存して施錠できる場所に保管する。研究終了後は全てのデータを廃棄する。</p> <p><b>【有害事象等】</b> 本研究はカルテ調査を基にした研究であり、患者に対する有害事象や健康被害は想定されない。</p>
--	---